

第2回 倉敷市水道事業経営審議会会議録

1 日 時 令和5年10月11日(水) 13時30分～14時20分

2 場 所 片島浄水場2階見学者ホール

3 出席者 出席委員12名

天王寺谷会長、菅副会長、伊藤委員、大橋委員、岡本委員、尾跡委員、竹田委員、
中村委員、西委員、山路委員、山野委員、渡邊委員

事務局8名

古谷水道事業管理者、智片参事、森兼副参事兼水道管理課長、大森副参事兼水道
総務課長、佐藤副参事兼企画検査室長、安部水道建設課長、桂水道建設課長代理、
石井浄水課主幹

4 会 議

(1) 議 事

- 1 倉敷市水道局の事業計画
- 2 第一期基盤強化計画の概要
- 3 第一期基盤強化計画の各事業

<質疑>

委 員 管路について耐震化や老朽管の更新を推進していくという説明がありましたが、老朽管の更新というのは古い管を耐震性のある管に入れ替えていくということでしょうか。また、スライド15で令和4年度から令和13年度の事業費が約500億円という説明がありましたが、これはいつの時点で試算されたものでしょうか。昨今の物価高騰の影響は加味されたものでしょうか。

事務局 老朽化した管の更新を行う際は古い管を耐震性のある新しい管に入れ替えますので、老朽管の更新を行うことは耐震化を行うことと同じ意味合いとなります。また、約500億円の事業費については、計画を策定した令和3年度に試算したもので、令和4年度以降の急激な物価上昇については見込まれておりません。施設規模の最適化やダウンサイジング、業務の効率化など可能な限りコスト削減を図りながら必要な工事を実施して

いく予定です。

委員 スライド10で、配水池を旧施設（施設容量920m³）から新施設（施設容量290m³）に更新した際に、施設容量を小さくしたという説明がありましたが、施設容量が約3分の1に減ったということはこれだけ人口が減ったということでしょうか。

事務局 配水池の施設容量は、配水エリアにおいて12時間で使用する水量を基準にして決められます。スライド10でお示しした配水池の旧施設は、昭和42年の建設当時、増加傾向にあった人口予測をもとに施設容量を決定したものです。それに対し、新施設は現在の使用実績や今後見込まれる人口減少を踏まえて施設規模の最適化を図っています。節水機器の普及などにより一人当たりの水道使用量が減少していることも施設容量が小さくなった要因の一つとして考えられます。

委員 スライド10の配水池のダウンサイジングについて、新旧施設で維持管理費なども含めた費用の比較はされているのでしょうか。

事務局 資料の持ち合わせがないため、この場で具体的な金額をお答えするができませんが、施設をつくる際には、構造物をつくる費用だけでなく、維持管理費なども含めたライフサイクルコストで比較検討をしています。ダウンサイジングすることで土地代の削減や配水池まで水をくみ上げるポンプ場の縮小などの効果も見込んでいます。

委員 スライド16で令和13年時点での主要な施設の耐震化状況の説明がありましたが、令和13年度の時点で上成浄水場と真備浄水場が耐震化未実施のままとなっていますが、何か理由はあるのでしょうか。

事務局 上成浄水場と真備浄水場については、それぞれの施設を単純に更新するのではなく、施設再編を行うことでコストの削減を図ることができないかと考えています。令和14年度以降に着手できるよう施設再編に伴う様々な課題について検討を進めているところです。

委員 スライド17に記載されている「管路の耐震適合率」がほかの指標に比べて低いですが、何か理由があるのでしょうか。

事務局 この指標は管路全体の耐震適合率を表しています。倉敷市の管路総延長は3,300km以上ありますが、そのうち1年間の更新延長は約30km（管路全体の1%弱）のため、他の指標に比べて低くなっています。全国的にみても更新のペースは倉敷市と同水準となっています。このような状況を踏まえ、国は「防災・減災、国土強靱化の

ための5か年加速化対策」で、より重要な基幹管路に着目した耐震化の目標を掲げており、倉敷市でも基幹管路について重点的に耐震化に取り組んでおります。

(2) 今後の日程について

事務局 次回の審議会の日程ですが、第3回倉敷市水道事業経営審議会を11月20日(月)14時から、水道局3階大会議室で開催させていただく予定です。日程につきましては、別途通知を送らせていただきますが、委員の皆さま方には予定を入れておいていただければと思います。

令和5年 11月 8日

代表署名人 天王寺谷 達将